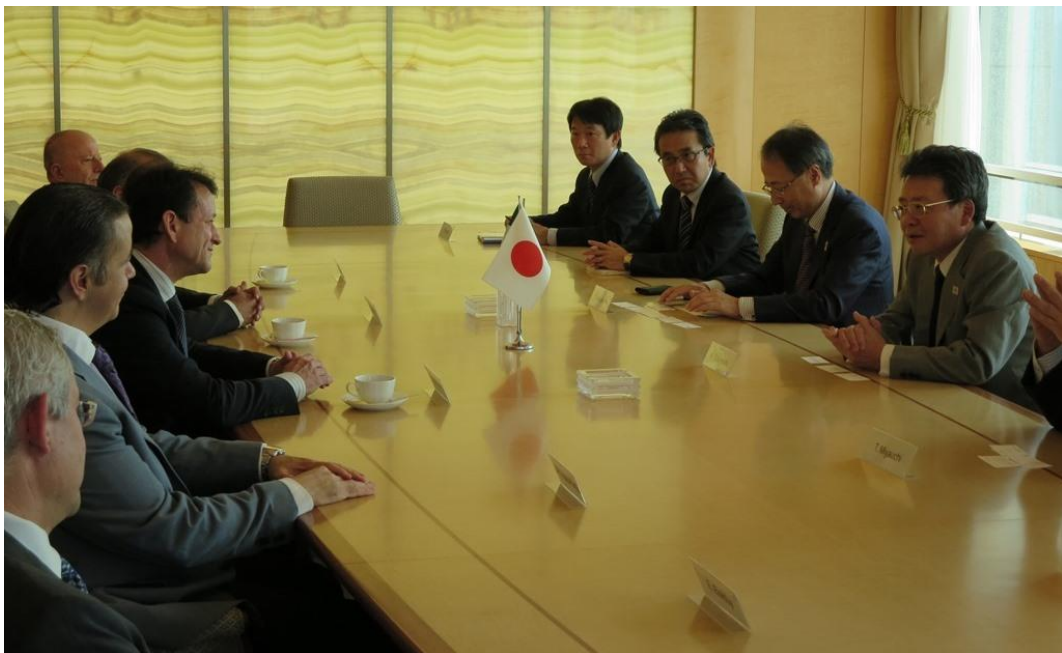


メキシコ経済省の ESSA 代表団来日

2013年7月10日、2年に1度開催されるメキシコ経済省と三菱商事の合弁製塩会社 Exportadora de Sal, S.A. de C.V. (ESSA) の懇親レセプションに出席するため、ESSA 代表団が来日しました。また、マリオ・アルフォンソ・カントゥ経済省鉱業担当官兼 ESSA 会長、アルマンド・ペレス経済省鉱業振興局長兼 ESSA 副会長、ホルヘ・ウンベルト・ロペス・ポルティージョ ESSA 社長、エドゥムンド・エロルドゥイ ESSA 前社長の代表団一行は、小林健 三菱商事代表取締役社長や同社の化学品グループと面談を行い、今後の ESSA の塩田事業発展について協議しました。



マリオ・アルフォンソ・カントゥ経済省鉱業担当官兼 ESSA 会長率いる ESSA 代表団と小林健 三菱商事代表取締役社長、同社化学品グループとの面談にて。

1973年にメキシコ政府と三菱商事は契約調印し、ESSAは現在、年間約750万トンの塩を生産する世界最大の天日塩田事業が展開されています。さらに、日本の塩総輸入量の約半分を供給しており、昨年のESSAから日本への輸出量は271万1,673トンでした。他にも中国、韓国、米国、カナダ、ニュージーランドなど様々な国に輸出しています。

今回の ESSA のレセプションは、メキシコと日本の経済関係におけるメキシコ塩事業の重要性を強調する貴重な機会となりました。



レセプションでスピーチを行うマリオ・アルフォンソ・カントウ経済省鉱業担当官兼 ESSA 会長

出典：メキシコ経済省駐日代表部